

4. 京都大学教育交流会プロジェクト

高等教育研究開発推進センター・助教授

溝上 慎一

(溝上) 私は、昨年の4月から始まった「京都大学教育交流会プロジェクト」についてご説明します。来週に新入生ガイダンスがありまして、そこで学生たちがこの教育交流会プロジェクトのアナウンスをしますので、そこでの資料(資料 F 参照)を参考にしながら説明させていただきたいと思います。

先ほど見ましたセンターのパンフレット6ページを先に見ていただきたいのですが、もともとの交流会プロジェクトが始まる前に、「学び支援プロジェクト」を4年やりました。これは、私たち旧センターが公開実験授業を中心にした相互研修型FDということを進める傍らで一つ見えてきたことの具現化です。つまり、FDの進め方はそれでいいのですけれども、他方で学生たちの学習のしかたが非常に受け身であるということを非常に危惧したわけです。京都大学は学生による授業評価アンケートを組織的には行わない形で進んできていますが、たとえばこのような満足・不満足を中心にした授業評価、教育評価では、学生たちの受け身の姿が助長されるという懸念を強く持ったわけです。教員が教育改革の舞台に立つならば、学生たちも同じ舞台に立たなければならないのではないかと、つまり先生方も教育の改善を図り京大らしい改革に携わっていかねばならないのですが、学生たちも力強い学習者として改善の表舞台に立つと。こういう両面を進める一つの取り組みとして、先ほどの学び支援プロジェクトというものをやってきましたわけです。

先ほど林先生も少し触れましたように、センターが改組されて1年めは、主に私たち旧センターの第1部門が中心に活動を進めてきたわけですが、そうやって月日がたつ中で、学生のおく強い学習力というものをとにかく教員にぶつけて、それを教育改善の一つのきっかけにしていきたい、そういう話を林先生や田中先生などと議論をする機会が徐々に出てくるようになりました。とにかく京都大学というのは自由な学風や自学自習など、学生たちの力強い学習力に支えられてきた大学です。先生たちはFDで教育を改善するということではなかなか動いてくれないのですが、学生たちが学問を探究するという姿勢のもとにぶつかっていくと、けっこう真剣になって学生たちに応えるわけです。京都大学には、そういう文化というか雰囲気があります。林先生らと合意を得た部分はここです、とにかくこのダイナミクスを教育改善に生かしていこうとなったわけです。学び支援のプロジェクトは主に私一人がやっていたもので、ささやかなものですが、その成果も林先生らとのこうした議論を具体的な実行へと移していくのに貢献したと思います。こうして、学生と教員で進める教育改革のためのプロジェクト(後に「交流会プロジェクト」と呼ぶようになります)が始まりました。

交流会プロジェクトにはセンターの多くの教員が関わっています。現在、私たちの第1部門からは大塚先生、松下先生にご参加いただいています。第2部門は8名のうち5名ぐらいが参加して下さっています。第3部門の3名の先生は、全員参加していただいています。こうして、交流会プロジェクトは部門を越えたセンター全体のプロジェクトとなって

います。まだ今年1年めはそう大きなことはできておらず、主に交流会プロジェクトをどのような内容で進めていくかという議論、そして体制づくりにけっこうな時間を費やしてきました。ちなみに学生は、学生実行委員という募集を年に何回かして集めています。学生は今20名近くいますが、常時活動に参加できているのは6～7名です。

交流会プロジェクトには、大きく四つのワーキンググループ（以下、WG）があります。

WG 1は、オフィスアワーのシステム作成のグループです。今まで学生が教員に質問をしたい、研究室を訪れたいと思ったときに、どこに相談に行ったらいいか、研究室の場所や時間がわからない、などの問題がありました。教員と学生との距離がかなりあるという問題点も学生から指摘されてきたことでして、交流会プロジェクトの1つの取り組みとして、学生が教員に気軽に行けるような状況をオフィスアワー・システムとして構築しようということになりました。交流会のメンバーでアンケートをおこない、オフィスアワー・システムに協力してくださる先生を情報収集して、それをウェブで公開するようにしました。そこでは、ある専門分野についてはこういう先生がいるとか、〇〇先生の研究室はどこで、オフィスアワーの日時はいつという情報が掲載されています。もうすぐオープンです。

WG 2は、教員、学生の調査グループです。学生による授業評価を組織的にやっていないことは先ほど述べたとおりですが、ただ授業に対してのデータを収集していくことは必要です。そこで私たちは、とにかく学生の学習する態度や成果を問いながら教員の授業改善、教育改善を図っていこうと考えました。具体的には、1回生の4月、新入生ガイダンスのときに、入学してからの1年間の学習への取り組みの所信表明を書かせます。それを2回生進級時の成績交付のとき——それが来週なのですが——、「入学時にあなたたちはこういうことを京大に入ってから勉強したいと書いていました」と一人一人に返します。それで1年間の取り組みがどうであったかという反省をふまえて、1年間受けてきた授業を振り返ってよかった授業、あるいは悪かった授業、その理由を書いてもらいます。このような学生の学習状況をセットにした授業アンケートを実施しようとしています。この実施母体は高等教育研究開発推進機構となっていますが、アンケート用紙の中身の作成、結果から改善へのフィードバックには交流会プロジェクト・WG 2が関与します。

なお改善への方途としては、アンケートで出てくるいい授業、いい教員をインタビューし、それをモデルケースとして具体的に教員、学生に紹介していこうと考えています。また、学生の学習のしかたも同様にモデルケースとしてフィードバックしていこうと思います。いい勉強の仕方をしているな、京大生らしい勉強の仕方だなと思うものを片っ端からリサーチして、モデルケース、フィードバックをしていく、紹介をしていく。そして、それらをこれまでFDとしてやってきたものと連結を図りながら、全体として教育の改善を図っていきたい、そう考えての取り組みです。

WG 3は他大学との比較検討を通じて、京大らしい教育を考えていくグループです。報告書を読んだり、シンポジウムや研究会に出かけていたりするなどいろいろやっていますが、近々予定されているのは4月23日にある大阪大学との合同イベントです。京都大学の学生というのは自分の大学しか知らないことが多いので、よその学生でもけっこうやるのだということを見せたいわけです。そうしたことを契機にしながら、学業の探究心を育てていきたい、少しでもやる気のある学生が出てきてほしい、そう願っています。

また WG 4 では自主研究ゼミを開講して、1 回生から研究の醍醐味に触れてもらうような授業を始めています。1 回生は基礎だとか教養だとかいうのですが、とにかくやろうという学生に対しては機会を開いていこうではないかということです。上回生もサポート側として参加していますので、学年間を越えたアカデミックな交流が生まれることも期待しています。

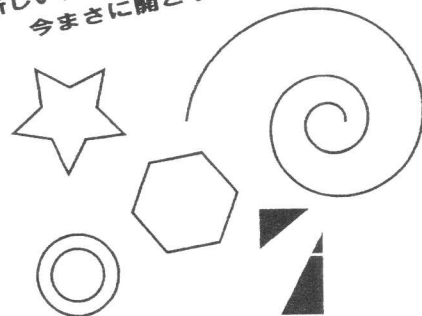
このように、交流会プロジェクトの取り組みにはハードなものとのソフトなものとの両面があります。たとえば 2 回生進級時アンケートは非常にハードなもので、やる気のある一部の学生に投げかけていく類のものというよりは、全学的に毎年継続して執行していくシステムティックな活動です。しかし他方で、先ほどの阪大との合同イベントのような、あるいは最後のページにありますように、この前の 2 月におこなった卒業生イベントなどのように、ソフトな取り組みもあります。それらは多くの学生には響かないだろうけれど、少しでも多くの学生にアカデミックな刺激を与えていきたい、京都大学の教育について何度も議論していきたい、そういうことをねらった取り組みです。

最後に、『共通教育通信』をお渡ししています。これは先ほど林先生が話されました高等教育研究開発推進機構という組織が出している全学学生への一つの通信パンフレットです。その（資料 G 参照）13 ページに、「京都大学教育交流会プロジェクト」という活動が、毎号紹介されています。こういう組織的な媒体紙に活動報告をさせてもらうことは、一見何気ないことのように見えますが、京都大学で全学的に交流会プロジェクトの活動が支援されていることの表れだと見ています。

～京大教育交流会～

学生と教員のコラボレーションが
新しい京大の歴史のページを
今まさに開こうとしている！

京都大学の理念「自由の学風」「自学自習」など
これらの理念にふさわしい**学習環境**を実現するために
アイデアや問題について学生、教職員が
一緒にうんうん頭を悩ませながら考え、
わいわい楽しみながらも綿密に計画し、
どうなるのかなとワクワクしながら行動する
学生と教職員一体のグループ



どんなことをしているの???

コミュニケーション

学生間、教職員間、学生-教職員間
の交流をもっと活発にしよう

学生間交流

学部・学年・大学を超えて
異なる価値観と出会い、成長しよう

意識改革

学生-より高い学習意識を持とう
教職員-学習環境の改善意欲が必要

学習意欲を増幅する環境

どんな学習環境が理想だろうか

- ・優れた研究成果を挙げるには
学部四年間どのような学習を
すればいいのだろうか
- ・社会で活躍する人材になるには
四年間をどう過ごせばいいのか
考えることからスタートしよう

問題解決行動の実行

ここ10年間の調査で
問題はほぼ網羅されている
後は企画し、行動する
優秀な人材が求められている

具体的にはどういう活動???

オフィスアワー・システムの作成

学生が教員に研究内容や勉強の進路について
相談できるシステムを構築

アンケート意識調査

継続的に意識調査することで
学生の声を拾い上げる

学生・教員へのインタビュー

より良い教授方法、学習方法
を模索していく

大学比較調査

他大学の教育を比較することで、
京大らしい教育像を明らかにする

自主研究ゼミ

ポケゼミという形で一回生から
研究の雰囲気味わう

アイデア企画、問題の発見・解決

実際に問題を調査し、探求し、仮説検証し、
企画、行動、追跡調査する
ワーキンググループという形態をとっています

でもそういうのってめっちゃ雰囲気カタイんちゃうの～???

交流会メンバーのコトバ

活動していて充実感があるよ～(学生)
一年を通して納得のいく成果が出たなあ(学生)
自分の考えを実現することができる
可能性がある(学生)
京大を良くしようという思いがあってやっている
活動だからやりがいがある(学生)
学生と教職員が協力して活動している
この交流会は非常に有意義だ(教員)
学生とのミーティングでは教員だけの会議では
得られない【気づき】がある(教員)
京大を大きく動かす可能性を秘めている(教員)

ACCESS !

koryu@socio.kyoto-u.ac.jp

吉安亮介 総合人間学部二回生

EVENT

交流会説明会

時: 4/13 6:30～8:00

場: 総合人間学部棟1B05教室

先生方と話せる機会!

非常にウェルカムな先生が多いので
魅力的な場になると思います
より詳しい説明はこのときにします
来てくださーいネ

ポケットゼミ～自主研究ゼミ説明会

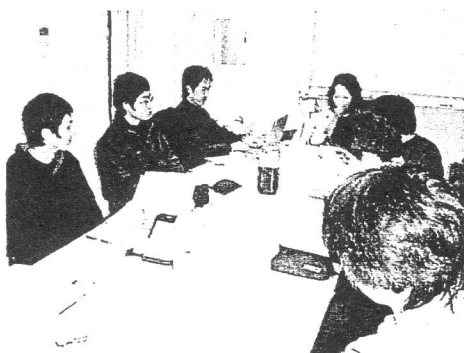
4/13五限(ピラ参照)

京大・阪大合同イベント

4/23(ピラ参照)

学生・教職員みんなで京大の教育を盛り上げよう!

学生実行委員 吉安 亮介(総合人間学部2回生)



阪大との合同イベントに向けて(WG3)

京都大学教育交流会は、「自由な学風」とされる京都大学の新しい教育のあり方や学生の学びについて、学生と教職員が一緒になって考えていくとするプロジェクトです。現在、4つのWG(ワーキンググループ)に分かれて活動をしています。以下、最近の活動を報告します。

大阪大学との合同イベント

(WG3企画)

4月23日(土) (於・人間・環境学研究所地下大講義室)

「京大らしい教育とは何か?」を考えるにあたり、「京大らしくない教育」、つまり「他大学の教育」を調査し比較することにより「京大らしい教育」を具体化しようと試みています。その一環として、阪大との合同イベントを開催します。イベン

トでは、まず第1部で両大学の授業の雰囲気をつかんでもらうために、京大からは運動科学の小田伸午先生(高等教育研究開発推進センター)に、阪大からは物理の藤田佳孝先生(理学研究科)にミニ講義をして頂きます。どちらの先生の講義とも「実演」が持ち味の人気講義です。その後、第2部で京大・阪大の学生による討論の場を持ちます。お互いに刺激し合い、またこのイベントを通じて交流の輪が広がればと思います。(どうでもいいことですが、阪大では授業の開始にチャイムが鳴るそうです!)

ポケットゼミ「自主研究ゼミ」

の開講(WG4企画)

このゼミでは、1回生のうちから実際に「研究」を我が身で体験してもらい、さまざまなことを学んでもらおうという試みです。研究のテーマは、「方言の分布」から「京都モデルを使った細胞のシミュレーション」まで、文系・理系分野を問わず何でもアリです!完成した論文はWWWで公開することを予定し、特に優れた論文については学会誌に投稿することも検討しています。担当教員や上回生が研究のサポートをしますが、あくまで自分が考えて研究をすることを第一とします。また授業では研究の「達人」を呼んで、研究の仕方・研究に取り組む姿勢などをレクチャーしてもらいます。一回生は、是非参加してみてください!

その他の活動

【WG4企画】

2月には、社会で活躍している京大の卒業生をお招きし、現役学生に、社会の最先端の実情をふまえた教を飛ばしてもらいました。



卒業生と語る(WG4)

【WG1企画】

今春からKULASIS(全学共通教育教務情報システム)と連動したオフィスアワー検索システムが導入されます(オフィスアワーとは、学生が教員に研究内容や勉強や進路などについて相談できる時間のことです)。

【WG2企画】

京大の学生・教員の教育に対する意識調査を継続的に行うことを念頭において、2回生進級時のアンケート(案)を作成しました。この結果にもとづいた教員、学生へのインタビューも予定しています。

※学生実行委員随時募集中!

担当 吉田 純

(高等教育研究開発推進センター教授)
(E-mail) koryu@soci.kyoto-u.ac.jp

新入生大歓迎です!